

(別添 2)

No.	5
策定年月	令和4年6月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆産地生産性向上計画  
長野県白馬村産地  
(作成主体:白馬農場株式会社)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

白馬農場(株)は、白馬村の耕作面積527haの内130haを利用集積して耕作をしている。  
栽培品目は水稲、蕎麦、大豆、野菜類であるが、主食用米は国内の需要が減少しており、将来を見据えて、園芸品目の拡大と併せて、需要の増加している大豆の生産拡大をする必要がある。  
大豆の生産拡大にあたっては、担い手への農地集積が進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い大豆産地づくりを推進していく。  
また、実需と密接に連携し、実需が求める品種を拡大生産する等安心安全な栽培により、反収の増加と品質の向上を実現する。現在白馬村においては、白馬村水田収益力強化ビジョン、白馬村農業再生協議会により、水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において大豆の生産性向上、生産拡大に係る取り組みをより具体化するとともに関係者の連携を強化し、地域の農業の更なる活性化を図っていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

大豆については、本地域で生産している品種すずほまれ(令和5年産よりすずみのり)は、集荷業者を通して県内外の企業に販売され、豆腐等に利用されている。

現状では実需からの要望を生産量が満たしておらず増産を図る必要がある。なお、地元産の大豆の需要が高まってきているが、大豆を安定供給出来る生産者は皆無の為品不足が続いている。

天候不順により、生産量にばらつきが生じているが、適期播種、湿害対策、除草対策を行いながら安定生産を図る必要がある。

### (2) 生産における現状と課題

近年、大豆の作付け面積は横ばい、単収においては長期的に低下傾向となっている。

単収低下の原因として、天候不順により耕起、播種、除草剤散布の適期を逃して、雑草害による収量の低下が考えられる。

対策として、耕起の高速化、適期播種、湿害対策の他に中耕技術を取り入れる事で、土寄せによる作土の増加と除草効果を上げて、根の生育状況を改善して収穫量を上げる必要がある。

また、収穫コンバインの刈り取り処理能力不足の為、刈り取りが降雪時期にまで差し掛かっている。

作付面積を増やす為には、コンバインの処理能力向上と、作業効率を上げる団地化の推進が課題となっている。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		〇年産	〇年産	3年産(現状)	〇年産	〇年産	3年産(現状)	〇年産	〇年産	3年産(現状)
小麦										
大麦										
作物計		(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		1年産	2年産	3年産(現状)	1年産	2年産	3年産(現状)	1年産	2年産	3年産(現状)
大豆	すずほまれ	(25) 25	(25) 25	(30.59) 30.59	(28) 28	(24) 24	(66) 66	(7) 7	(6) 6	(20) 20
作物計		(25) 25	(25) 25	(30.59) 30.59	(27) 28	(24) 24	(65) 65	(7) 7	(6) 6	(20) 20

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

## ② 団地化

作物名	品種名	○年産		○年産		○年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
大麦								
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

作物名	品種名	1年産		2年産		3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	すずほまれ	17	68.0%	18	72.0%	23	75.2%	
作物計		17	68.0%	18	72.0%	23	75.2%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

長野県においては、団地は1ha以上の同一作物が作付けされており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接している農地としているが、白馬村神城地区は中山間地域であるため、1haを0.5haと変更し団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。